

小中学生にみる公園の利用と評価について

福島工業高等専門学校〇学生会員 三浦千明
正会員 齊藤充弘

1. はじめに

街区公園は人が多く集まる空間であり、本来ならば安全・安心に利用できる空間である。しかし、近年では子供の誘拐事件など凶悪犯罪も発生しており、公園の安全性は必ずしも確保されているとはいえない状況になってしまっている。さらに、さびれて誰にも使用されなくなった公園を多々見ることができ、そのように人の目がなくなってしまった公園の存在も凶悪事件の発生に関与していると思われる。公共の場である公園は、安全・安心の確保が必要不可欠である。また、公園は子供が遊ぶばかりでなく、避難所としても使用される。実際に、東日本大震災の際には多くの公園が避難所として使用された。遊び場や避難所など、公園には様々な利用目的があり、老若男女問わず住民の誰もが利用することのできる空間である。そのため、公園の利用のされ方を今一度検討することは、まちづくりに取り組む上でも重要であると考ええる。

本研究は、いわき市平地区を対象として、街区公園の形態とその利用実態を明らかにすることを目的とする。その上で、公園の安全性や利用方法を明らかにし、人々が快適に過ごすことのできる公園について検討していく。

2. 研究対象と方法

(1) いわき市・平地区における公園の分布と現状

いわき市には244の公園があり、そのなかでも街区公園は198と約80%を占めている。また、平地区における公園の総数は92であり、次いで多い地区は小名浜地区で65であることより、他の地区と比べて公園や緑地が多いといえることができる。一方、中山間地域では少なく、川前、遠野、田人などではみることができない。

そのなかで、平地区における公園の分布を規模別にみると、中規模の公園（1000㎡～5000㎡未満）はいわき駅の周辺に集中しており、大規模の公園（5000㎡～10000㎡未満）は平地区全域に分散していることがわかる。また、小規模の公園（1000㎡未満）は主に、住宅団地内にみられることがわかる。現地調査を通してその形態についてみてみると、規模の違う公園には様々な違いがあることがわかる。大規模の公園は小規模に比べて遊具の大きさはもちろん違うが、広場の大きさの差がとても大きいことがわかる。また、大規模の公園はトイレや水飲み場がついているが、小規模の公園はついていないことが多いことがわかる。また、対象とする平地区の街区公園の放射線量は、平成27年末のいわき市調査分では、平均値が0.10～0.13μSv/h

表1 アンケート調査の概要

調査期間	2015年12月	調査方法	配票調査法
調査対象	いわき市平地区内1中学校区 1中学校, 2小学校		
対象	配布数	対象	配布数
中学1年	179	小学4年	182
中学2年	207	小学5年	209
中学3年	181	小学6年	218
特別支援	5	特別支援	7
保護者	572	保護者	594
調査項目	●普段の生活について ●楽しい遊びについて ●公園について		
属性	生徒	性別, 学年	
	保護者	性別, 年代, 職業, 子供の性別	

でとなっており、日常の利用に問題はない状況である。

(2) 研究の方法

本研究では、対象とする平地区の街区公園の形態を明らかにするために現地調査を行い、またその利用実態を明らかにするために、小中学生とその保護者を対象としてアンケート調査を実施した。その調査概要をみたものが、表1である。調査は、平中心市街地に隣接する1つの中学校区を対象として、3つの小中学校の生徒及び保護者に対して実施した。尚、この中学校区内には、街区公園の他に近隣公園や運動公園もある。

3. 普段の生活について

(1) 遊ぶ場所について

普段遊ぶ場所について、「学校の校庭で」をはじめ7つの場所について、「よく遊ぶ」、「たまに遊ぶ」、「どちらともいえない」、「ほとんど遊ばない」、「全く遊ばない」の5つの選択肢により回答してもらい、その回答を4点、3点、2点、1点、0点と点数化して集計した。対象とする学校の各学年の1クラスずつについてみたものが、表2である。

これをみると、「自分の家で」という回答の点数が、小中学生ともに高く（小学生1; 3.20, 小学生2; 3.39, 中学生; 2.82）となっており、特に小学生において高く

表2 普段遊ぶ場所について

	小学生1	小学生2	中学生
学校の校庭で	2.89	2.49	1.64
自分の家で	3.20	3.39	2.82
友だちの家で	2.40	2.73	2.25
公園, 広場で	2.76	2.77	2.19
ショッピングセンターで	1.45	1.49	2.31
山や川といった自然の中で	1.22	1.30	1.01
家の前の道路や近所などで	1.53	2.13	1.60

キーワード：街区公園，小中学生，遊び場

連絡先：福島工業高等専門学校建設環境工学科 〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾 30 TEL:0246-46-0830

なっているのを見ることが出来る。次いで、「友達の家で」という回答が小学生 1；2.40，小学生 2；2.73，中学生；2.25 とすべて 2 点以上の点数となっている。そのようななかで、「公園，広場で」という回答は，小学生 1；2.76，小学生 2；2.77，中学生；2.19 となっており，小学生において高い点数となっている。中学生においては，「山や川といった自然の中で」という回答の点数が 1.01 となっており，小学生と比較して，外で遊ぶ機会が少ないということができる。その一方で，「ショッピングセンターで」という回答が，中学生においては 2.31 と小学生（1.45，1.49）と比較して高くなっていることより，遊ぶ場所が変わってきているのを見ることが出来る。

(2) 遊びの楽しさ

遊びの楽しさについて，「家の中で（ゲーム，ビデオ鑑賞など）」をはじめ 9 つの遊びについて，「すごく楽しい」，「楽しい」，「どちらともいえない」，「あまり楽しくない」，「楽しくない」の 5 つの選択肢により回答してもらい，それを「遊ぶ場所」についてと同様に，4 点～0 点に点数化して集計してみたものが表 3 である。

これをみると，「家の中で（ゲーム，ビデオ鑑賞など）」が最も高く（小学生 1；3.31，小学生 2；3.33，中学生；3.31）となっており，すべて 3 点を超えている。「ゲームセンター」を除いて，すべての遊びが 2 点を超えているなかで，「家の中で（かくれんぼなどのゲーム）」が中学生において 2.06 と小学生と比較して低い点数となっており，「家の中で（スポーツなど）」（同 2.85）とともに，中学生においてその楽しさの評価が変化しているのを見ることが出来る。その一方，「スマートフォン・携帯電話・パソコン」については，中学生において 3.12 と 3 点を超えており，小学生と比較して高くなっているのを見ることが出来る。

表 3 遊びの楽しさ

	小学生1	小学生2	中学生
家の中で(ゲーム、ビデオ鑑賞など)	3.31	3.33	3.31
家の中で(読書、音楽鑑賞など)	3.11	3.11	2.92
家の外で(かくれんぼなどのゲーム)	2.73	2.94	2.06
家の外で(スポーツなど)	3.22	3.28	2.85
おしゃべり	3.24	3.11	3.16
ゲームセンター	1.71	2.17	2.22
買い物(ショッピング)	2.63	2.58	2.86
スマートフォン・携帯電話・パソコン	2.77	2.53	3.12
旅行	3.34	3.20	3.02

4. 公園の利用と評価について

(1) 利用頻度

公園の利用頻度について，「毎日利用する」，「週に 3～4 回くらい利用する」，「週に 1 回くらい利用する」，「月に 1 回くらい利用する」，「1 年に 2～3 回利用する」，「まったく利用しない」の 6 つの選択肢より回答してもらい，それを「遊ぶ場所」や「遊びの楽しさ」についてと同様に，5 点～0 点に点数化して集計してみたものが図 1 である。

これをみると，小学生 1 が 2.34，小学生 2 が 2.59，中学生が 1.76 となっており，全体として頻繁に利用されていない実態を見ることが出来る。特に，中学生においては 1.76 と 2 点を超える小学生と比較して低い点数となっており，「月に 1 回くらい利用する」の回答割

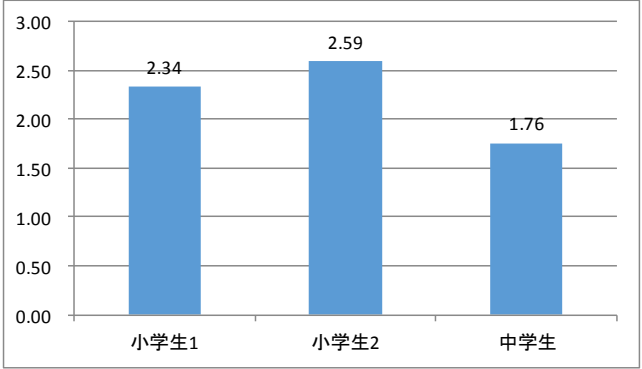


図 1 公園の利用頻度について

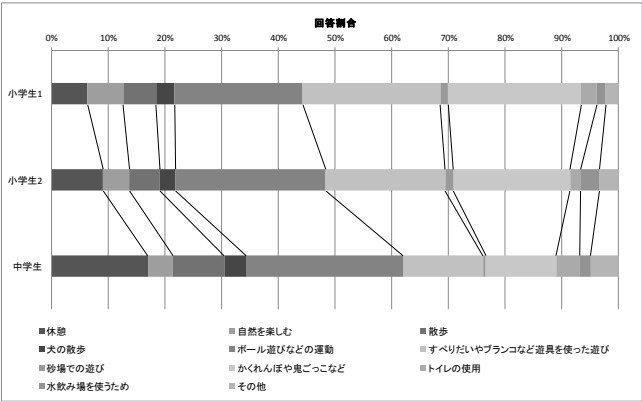


図 2 公園の利用目的

合が 32.70%と最も高い形となっている。

(2) 利用目的

公園の利用目的について，「休憩」をはじめ 11 の選択肢により回答（複数回答可）してもらった。それを学校ごとに回答割合としてみたものが，図 2 である。

これをみると，全体として「ボール遊びなどの運動」が最も回答割合が高く，小学生 1 が 22.55%，小学生 2 が 26.51%，中学生が 27.69%となっている。次いで，小学生においては「すべりだいやブランコなど遊具を使った遊び」（小学生 1；24.30%，小学生 2；21.12%）「かくれんぼや鬼ごっこなど」（同 23.43%，20.57%）となっている。中学生においては，それぞれ 14.05%，12.40%となっていることより，中学生において目的が変化しているのを見ることが出来る。一方，中学生においては，休憩の回答割合が 16.94%となっており，小学生（同 6.29%，9.02%）と比較して高くなっており，同様に変化しているのを見ることが出来る。

5. おわりに

本研究の成果として，第一に，小中学生とその保護者を対象として，普段の遊びとその楽しさについて明らかにすることができた。第二に，公園の利用頻度や目的，利用内容について明らかにすることができた。今後は，街区公園の形態とその利用との関係について，さらなる調査・分析を進めていく必要がある。

参考文献

1) 中西康裕・柄谷友香・青山吉隆・中川大，利用者意識からみた街区公園の不安感発生要因と不安感喚起地点予測モデルの構築，日本都市計画学会 都市計画論文集 No.104，pp.619-624，2005 年
2) 番場美恵子・竹田喜美子，子どもと高齢者をつなぐ地域コミュニティの拠点としての公園のあり方に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.1473-1476，2013 年
3) 工藤沙織・石川恒夫，中心市街地における地域コミュニティ活動と街区公園配置に関する研究，2012 年度日本建築学会 関東支部研究報告集Ⅱ，pp.425-428，2013 年